

天童市立第一中学校 学校だより

出羽の三森

第8号 令和 6年12月25日
文責：校長 町田真裕



2学期終業式 式辞より (抜粋)

三者面談はどうでしたか。しっかりと自分の成長とこれからの課題を確認することはできたでしょうか。一人一人が自分の成長と課題を理解し、さらに精一杯頑張ることで、学校が楽しく力のつく場となること。そして、一人一人が、自分で考え、決めて、自分から動くことができる人間へと成長していくことを期待しています。

ここで、3年生のHSさんの作文を紹介します。

「ありがとう」という言葉は、みんなを笑顔にするけれど、同時に言いづらい言葉でもあります。ですが、僕たちの生活には「ありがとう」を言わなければならない場面がたくさんあります。

今、僕は、当たり前のように学校に通い、家では、当たり前のように飲み物や食べ物が出てきて、当たり前のように笑っています。けれども、このことは当たり前ではないのかもしれない。

先日、給食の時間に先生が、「牛乳って1つでは逆さで立てないけど、3つなら立てる。」と言いました。僕は「これは人間にもあてはまる」と思いました。みんなで支え合い、誰かを支えれば、自分が困難になっても誰かが支えてくれる。支えを失って気づくのではなく、自分がどれだけ支えてもらっているかを、深く考えてみるのが大切だと思います。

「ありがとう」は言いづらいけど、口に出すことで、支えてくれる人たちに伝わります。だから僕は、感謝しきれませんが、「ありがとう」を言っていき、「ありがとう」と言われる存在になろうと思います。

素敵な作文ですね。みなさんが生きているこの時代は、「自分で自分のことを教育しなければならない時代」「自分で自分を成長させなければならない時代」であり、それがすごく大切なことです。

みなさんの周りに、自分の思い通りにならないときに、不満や文句ばかりを言うだけ人はいませんか。世の中、思い通りにならないことなんてたくさんあります。例え、思いに沿わないことであっても、その意味や理由を考え、そのことを素直に受け入れて、その中によさを見つけ、支えてもらいながら、一生懸命に取り組む。そうすることで、そこに学びができ、成長へと繋がっていくものです。

これが「自分で自分のことを教育する・自分のことを成長させる」ということです。

みなさんには、周りの支えに気づき、気遣いのある言葉である「ありがとう」をタイミングよく言える人になってほしいです。